

中部シニアライフアドバイザー協会

会報

Vol.2 1995.2.28.
中部シニアライフアドバイザー協会
総務委員会広報部
〒460 名古屋市中区正木1-2-8
(財) シニアルネサンス財団
名古屋インフォメーションセンター内

「知力と技を出し合って、これからも…」

中部シニアライフアドバイザー協会
副会長 野瀬三枝子

昨年2月12日、玄関の向こうはまれに見る大雪でした。

その日は、SLAの養成講座を受講するための面接日で、めったにない銀世界の巡り合わせを喜び、いそいそと出かけたものです。

あれから一年余、協会にとっては試行錯誤の日々、私にとってはある種のカルチャーショックつづきで、見えなかったものが見えたり、見たくないものが見えたり。そして、何よりも人と人との出会いがたくさんありました。出会いは何かの始まりと申しますが、シニアによるシニアのための活動を、会員それぞれの知力と技と情報提供により、手さぐりながら歩を進めることができました。

人間は、一人では生きづらいです。同様に一人の知力や技は大河の一滴ですが、一滴が集合すれば大河になることを実感した一年ではなかったでしょうか。

☆大きな集い小さな集い、いくつか。

ご承知のように中部SLA協会は、昨年10月2日に産声をあげたばかりです。今日まで短期間ではありましたが、幹事会および総務・研修・地域の各委員会とも、積極的にその役割を果たすことに努め、いくつかの大きな集い小さな集いが始動しています。

例えば、1月29日に開催されました「SLA研修会」では、予想をはるかに上回った59名の参加で。また、それぞれの地域部会においては、SLAの役割と心がまえを基本

とした話し合いがもたれています。

さらに、3月から4月にかけては、「シニア生き生き教室」が名古屋・小牧・四日市の各会場でテーマ別に開催されますし、外に出て学ぶ“体感研修”なども企画のテーブルにあがっています。

しかし、まだまだ会員一人ひとりの思いや熱意が反映しているとは思えません。もっともっと会員同志が接近し、話し合いの中から得たご意見やご協力により軌道修正したり、SLAの望ましい役割とは何か、をいっしょに探っていく必要を強く感じています。

☆加齢をみつめていく。

一年目は試行錯誤、二年目は基礎体力をつける年です。まもなく三期生の新鮮な息吹も加わり、いちだんとご縁はにぎやかに。

基礎体力は、男である、女である、を意識することなく人間として同じ目線でもって、加齢によって生じる肉体、精神、人間関係、生活環境などの変化と向き合い、学び合い、培いながら蓄えていくことでは…。

個人的な見解で申しわけありませんが、ヨーロッパに「美は鏡に映るのではなく、鏡によって創られる。」という古い格言があります。この格言をシニアライフに引用するならば、「加齢は鏡に映るのではなく、鏡によって育む。」と。一口に潤いのあるシニアライフといっても人さまざま。実現に向けて、できることから順々に進めていきませんか。

研修委員会便り

第一回中部シニアライフアドバイザー協会 研修会報告

- ◇ 開催日 1995年1月29日
- ◇ 場所 高砂殿本店
- ◇ 出席者 59名



プログラム

- ☆ 講演 「SLA活動の現在と今後」
シニアルネサンス財団
会長 喜多村治雄
今年度は第3期SLA養成の他、シニアの
商品開発研究会、「生き生き教室」の推進
を財団としてすすめていく。また、SLA
は身近な人とのネットワークを作り、人と
人とを結びつける役割を担ってほしい。

- ☆ 調査報告 「電話相談の実態について」
寺田安正
'94.8.8 ~ '95.12.28 相談件数305件
1位家族 2位年金 3位人間関係(中部)
1位年金 2位相続 3位税金 (関西)

- ☆ パネルディスカッション
「電話相談にみるカウンセリング」
パネラー 浅野澄子 長 計
寺田安正 山下可子
コーディネーター 野瀬三枝子
パネラーから、相談業務に対しての、数多
くのヒントや指針があり、出席者全員で、
活発な議論が展開された。

- ☆ 講演「SLAに期待するもの」
愛知県社会福祉協議会
地域組織部長 丹羽典彦
人と人のかかわりがむつかしくなってい
く中で、基本的に相手を受け入れることが
大切。目的意識をもって聞く。すぐ評価し
ない。8割は相手に話してもらう。

☆全体を通して、豊富な意見交換、交流の
できた研修会でした。今後は分科会形式や
地区単位の部会など、成果発表のできる研
修会にしていきたいと思います。ご協力を
お願いいたします。 委員長 丸山茂樹

生き生き教室便り

名古屋、小牧、四日市 で熱意をこめて展開

協会主催の「シニア生き生き教室」が、3月
から4月にかけて開催されます。(会員には
「シニア生き生き教室へのお誘い」郵送済み
新聞掲載 朝日 中日)

シニアルネサンス運動を幅広く展開するに
は、多数の一般市民の参加が必要です。その
意味で、これらの教室が担う役割は大きいと
思います。参加動員はもとより、SLA活動
のPRのためにも、多くの方々への呼び掛け
をお願いいたします。

なお、講座①②③は定員に達しましたが、
④~⑨の講座は若干余裕があります。下記
の方へ電話連絡の上、ご参加ください。



名古屋 山下可子
小牧 田中照夫
四日市 福村正樹

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

—— 第一回全国SLA協会合同会議 ——

昨年10月20日、財団主催の関東、中部
関西、合同会議が東京で開かれました。

席上、財団から当面の事業予定についての
説明がありました。また、3協会が発足して
組織が出来上がった。今後は、財団がアレン
ジャーとなり、合同イベントも開催してい
きたいとのことでした。

(財)シニアルネサンス財団事業予定

- (1) 第3回SLA養成講座
- (2) シニア商品研究会
景気の低迷で発足が遅れていたが、
本年4月にはスタート予定
- (3) シニア生き生き読本の発行
- (4) シニア生き生き教室
- (5) SLA研修会
- (6) Gerontology (老年学)
の研究

地域部会便り



☆昨年暮、地域部会発足以来、各部で会合が持たれ、役員選出、連絡網の決定、部会の進め方など、力強い便りが寄せられています。

☆3月4月には、「シニア生き生き教室」が協会主催で開かれます。今後は地域部会が中心となって、この活動の展開を図っていきたいと思います。皆様の積極的な参加をお願いいたします。
委員長 田中照夫

地域部会の活動状況

- ① ブロック名 会員数
- ② 正、副部会長名
- ③ 開催日時 場所 出席者数
- ④ 活動状況など



- ① 愛知第1部会 19名
- ② (正) 松村 坦
(副) 藤村悦子 北森芙美代
- ③ (1) '94.12.10
緑社教センター 11名
(2) '95.3.5 同所 (予定)
- ④ (1) 自己紹介 活動の現状 代表者選出
電話連絡網の構成 連絡方法の決定
(2) ◇1月29日研修会に出席した感想
要望
◇3~4月「生き生き教室」についての説明 会員の動員体制協議
◇今後の電話相談 「生き生き教室」
についての要望

- ① 愛知第2部会 18名
- ② (正) 今泉治子
(副) 南谷紀美子 渡辺純子
- ③ (1) '94.12.8 8名
名古屋社会福祉会館 (以下同所)
(2) '95.1.8 9名
(3) '95.2.4 8名
(4) '95.3.19 (予定)
毎日文化センター (名駅毎日ビル)
- ④ ◇自己紹介とSLAとしての抱負
◇活動テーマと方向性について
◇名古屋の福祉の現状把握
◇愛知老人問題の研究活動の把握
◇「生き生き教室」への呼び掛け

- ① 愛知第3部会 15名
- ② (正) 福井直子 (副) 松田洋子
- ③ '94.11.27 毎日ビル 8名
- ④ ◇自己紹介 電話網の決定
◇会員が住んでいる地域ではシニア問題
がどうなっているか…宿題
◇当面、「生き生き教室」に力を注ぐ

- ① 愛知第4部会 20名
- ② (正) 寺田安正
(副) 鈴木八重子 山口敏子 寺西みち子
連絡世話人 (正) 山口敏子 寺西みち子
- ③ 1.22 名古屋社会福祉会館
14名
- ④ ◇各地域の情報交換について
◇各地域のSLA活動の検討について
◇部会自主研修について
◇他部会との交流について

- ① 三重部会 8名
- ② (正) 岩瀬哲也 (副) 山下まり
- ③ 出席者4~5名で数回開催
2.27 出席者予定 6名
- ④ 当面は「生き生き教室」開催に全力をあげる

- ① 岐阜部会 9名
- ② (正) 水野瑛智子
- ③ '94.12.4 毎日ビル 5名
'95.1.15 会食 5名
- ④ ◇地域での研修会開催についての研究
◇協会会員の研修会組織の確立について

参加者28名が、 熱心に受講

有志研修会 岐阜部会 世話人 長計
'95.2.26 於 邦和セミナー
◇米国研修ツアーに参加して 外山晴美
◇年金の実際 愛知社会保険労務士会
酒井 博
次回は「遺産相続と遺言状」に関する
テーマで4月中旬に開催予定

アメリカ西海岸 SR研修ツアー一記

川岸恒子

例年になく厳しい残暑も峠を越した昨年9月19日、アメリカ西海岸への研修ツアーに出発をした。この企画を知ったとき、8日も家をあけることに、ためらいがあったが、家族に励まされて、思い切って参加をした。

最初の訪問は、ロサンゼルスのアARP（全米退職者協会）。ここでは会員のための通信業務を行なっている。“ビジネスのために訪問してくる団体は多いが、ボランティアの訪問は珍しい”と大歓迎を受けた。

翌日は南カルフォルニア大学で終日講義。‘aging’の意味を考えさせられる。日本人の留学生も熱心に勉強をしていて、日本で、‘Gerontology（老人学）’が研究される日もそう遠くないと実感した。

ラグナヒルズにある広大なレジャーワールドは、隔離された‘高齢者村’という感じもしないではないが、生活面でも、娯楽の面でも、いろいろな施設が整い、高齢者が人生をエンジョイしている様子がうかがえた。マーケットの前で会った百歳のおばあさんは、赤や黄色の花柄のブラウスにグリーンのパンタロン……実にカラフルなスタイルだった。

サンフランシスコでは、パソコン通信社のM. Furlong代表等の講演を聞き、日本でのシニアネットの確立と普及は、これからの重要な課題と痛感した。

また、‘Age Wave社’は、高齢者に優しい企業であった。老人学や心理学博士でもあるK. Dychtwald氏の講演を聴いて、わたしも日常生活の中から、シニア商品を考えてみたくなった。

ハリウッド、金門橋、サンディエゴ、ティファナなどの観光もあり、瞬く間に旅の終わりがやってきた。名古屋からは4名のSLAが参加をしたが、関東や関西のSLAの方々とも親しく交流をはかることができた。出かける前には不安もあり、多少の勇気もいった。時差ボケや慣れない食事に戸惑いもしたが、中身の濃い研修ツアーに、大きな充実感があり、参加してよかったと思っている。

中部SLA協会NEWS

SLA 3期生に 5倍の応募

今年も（財）シニアルネサンス財団では、第3期SLAを東京100名、名古屋、大阪、仙台、広島、各50名募集しましたが、全国から15-16名の応募者がありました。4月末には新しいSLAの仲間が誕生します。

☆☆

第一回研修会の折り、阪神大震災義援金を募りましたが、26,000円のご協力がありました。早速、福村会長より、お見舞い状を添えて関西SLA協会にお送りしたところ、高橋克彦会長より丁寧なお礼の電話をいただきました。関西地区では2名のSLAの方が被災されたとのこと、あらためてお見舞い申し上げます。

アンケート調査（昨年11月送付）にご協力頂き、ありがとうございました。電話相談の対応についての要望が多く、これを受け、第一回研修会のプログラムを組みました。今後も会員の皆様のお考えを反映しつつ、協会活動の活性化を図っていきたいと思います。なお、回収率は67%でした。

編集後記

部員わずか3名の広報部ですが、各委員会をはじめ多くの会員の方々のご協力で、Vol. 2の発行にいたりしました。

瓦礫の山と化した神戸の街で活躍するボランティアの若者たちに、未来への明るい光を感じます。早期の復興を祈って。

大川 今泉 加藤(兼)